

I. はじめに

本校は各学年、生産流通科1クラス、経営情報科1クラス、普通科3クラスの計5クラス、3学年合計15クラスからなる総合制の高校である。学科の多様さ同様、卒業後の進路も4年生大学、短期大学、専門学校、公務員、就職と多岐にわたっている。3年生になると進学でも就職でも面接や小論文を必要とする生徒が多く、直前にはその対策に追われるが現状である。

これから生きていく世の中を知るために、また、読解力や思考力を身につけるためにも新聞を読むことは意義のあることであると日頃から授業やホームルームで話している。しかし、面接対策などで「最近の気になるニュース」などを聞いても即座に答えられる生徒は少なく、答えられたとしても「テレビで報道されていたことを何となく耳にした」「インターネットのニュースの見出しになっていた」程度の理解の者が多い。社会について知りたい時、調べたいことがある時に、簡単に情報検索ができるインターネットを使って検索をする生徒が多い。しかし、インターネットでは自分が興味を持ったことにしか目が向かず、広く社会について知ることは難しい。

そこで、本校では3年生を中心に主に進路指導と関連づけながら、生徒が新聞を開くきっかけ作りに取り組んだ。素直に人の意見を聞く本校の生徒達にも、批判的に物事を見る視点を身につけて欲しいと考えたからである。

II. 日常での実践

1. 新聞記事に触れさせるために

「新聞を読みなさい」と言われても、日頃読

み慣れていない生徒は新聞を開くことに抵抗があるようである。そこで、3年生の普通科では、生徒が新聞記事に目を通す機会を作るために廊下に各担任が選んだ記事を貼りだした。また、記事をスクラップしたファイルをクラスに配置した。学級通信で新聞記事を紹介したり、ピックアップした新聞記事を朝のホームルームの話題にしたクラスもある。この実践は現3年生が一年生の時から続けている実践である。

(1) 廊下に貼りだした新聞記事



新聞をそのまま貼ると、記事によってサイズが違うため煩雑に見えてしまう。コピーをしてA4サイズにし、ファイルの留め具を利用して張り出した。



コピー機で読み取ることのできない大きなサイズの新聞記事はマグネットを使ってそのまま廊下に貼りだした。あまり長く貼っておくと劣化してしまうので、次に張り出す記事が見つかったら、張り替えをし、過去の記事は担任が保管している。

(2) クラスに配置した記事のスクラップ帳

①職業に関する新聞記事



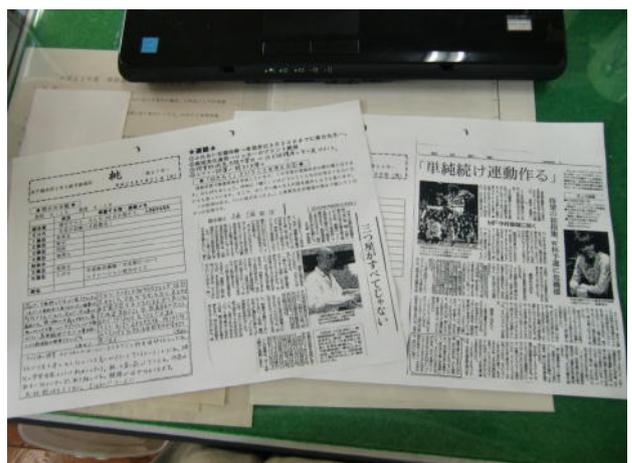
朝日新聞に「シューカツ学生ここが聞きたい」や「スタートライン」など、仕事のやりがいや就職活動に関連する記事が掲載されていた。この記事のコピーを各クラスに配布し、ファイルした。しかし、ファイルして置いておくだけでは紹介してもなかなか見ようとしないので、一度教室や廊下に張り出すようにした。すると、自分の興味を持った職業に関して、ファイルを見直す生徒が現れるようになった。

②分野別スクラップ帳



小論文や面接、口頭試問の対策として関連分野別に新聞記事をスクラップし、教室に置いた。

(3) 学級通信での紹介



クラスで発行している学級通信に新聞記事を載せ、その記事に関する担任の意見を書いて紹介した。記事に対する人の意見を読むことで批判的な読み方を身につけて欲しいと考えた。

2. 新聞の配置について

本校では「宮崎日日新聞」「毎日新聞」「夕刊デイリー」の3誌を、過去3年分図書閲覧室で保管し、自由に閲覧できるようにしている。



在学生在高校に入学してから現在までの期間に起きたことを調べられるようにするためである。予算の都合で、保管するためのファイルがまだそろっていないため整備中ではあるが、図書館入り口の目立つところに配置したことにより、調べ学習の際などに手に取る生徒は増えてきた。

クラスで新聞記事を紹介したことで、生徒が新聞記事に触れる機会は増えたが、教師が与えた記事を読むにとどまり、自ら主体的に新聞を開く生徒が育つにはまだ遠い状況であった。そこで図書館に足を運ばない生徒でも新聞に触れやすいようにし、それを糸口に図書館の新聞も

活用する生徒を育てたいと考えた。

そこで、生徒が進路情報を得るためにやってくる進路指導室前の廊下にその日の新聞を配置するようにした。

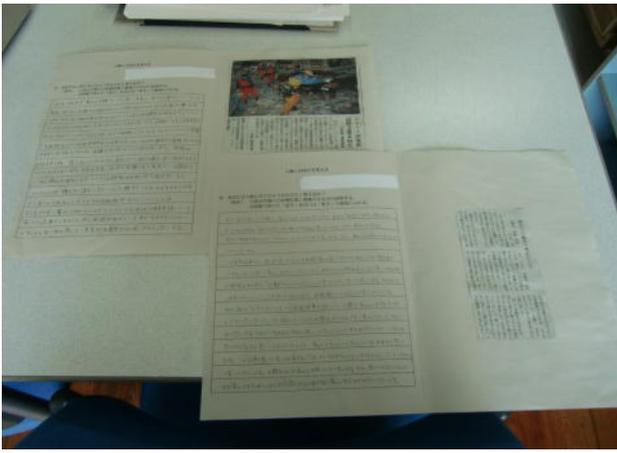


進路室が3年生の普通科の並びにあること、進路指導部が新聞の入替を確実に行ってくれたこともあり、配置された新聞を休み時間ごとに誰かしら見るようになっていった。何かのついでにちょっと触れることができる場所に新聞を配置することが利用推進につながる事が分かった。

III. 授業での実践

生徒が新聞に親しみ始めたところで、ただ記事を読むだけではなく、その記事に対する自分の意見も持つようになって欲しいと考えた。そこで、古典の授業と関連させ、新聞記事を読み自分の意見を述べるという授業を実施した。この授業を通じて、クラスの生徒全員がとにかく自分で新聞を開くということを経験した。日頃は新聞を開くことが少ない生徒でも、様々な視点から世の中が論じられていることにおもしろさを感じたようで、周囲と交換しながら新聞記事を真剣に読んでいた。

また、この授業を宮崎日日新聞社の方が取材に見えた。せっかくの機会だからと考え、授業の後半15分を新聞記者という仕事についての話をしていただいた。仕事について知ったことで、新聞への興味も高まったようである。



(生徒が作成したレポート)



(授業の様子が書かれた新聞記事)

(古典) 学習指導案

実施日	平成21年 10月21日 水曜日	実施時間	第2校時(9時45分~10時35分)	
場所	3年3組教室	指導者	教諭 沼田 悦子 印	
対象者	普通科 3年3組 男子20名 女子18名 計38名	2単位		
本時の単元・題材	思想① 「不忍人之心」(孟子) 「人之性悪」(荀子)	使用教科書	精選「古典」(東京書籍)	
単元・題材の目標	「性善説」「性悪説」の内容を理解したうえで、現代の事象と関連させながら、人間について考えていく。			
指導観及び生徒の実態	受験で使わなければ、古典を学ぶ必要を感じることができずに、拒絶反応を示してしまう生徒がいる。けれども、古典に記されていることは人間を、現代社会を、そして自分自身を見つめる材料となることも多い。書かれている言葉が変化しているだけであり、書かれている人間の本性は、昔も今も変わりがないことに気づかせたい。 本クラスの生徒はまじめで覚えるべきことをしっかり覚えようとする姿勢はあるが、自己の考えを表現することが苦手である。だが、これから社会にでると自分の意見を表現することは必要不可欠となる。新聞記事を活用することで社会への興味関心を換気するとともに、表現技能を会得させることの両立を目指したい。			
指導計画	1. 「不忍人之心」音読 2. 「人之性悪」音読 3. 内容読解 4. 人間の本性を考える 5. 自分の立場の根拠となる社会の出来事を探す(本時) 6. 他者と意見交換を行う			
本時の目標	孟子の性善説、荀子の性悪説を理解した上で、自分はどちらの立場を取るかを選択し、根拠となる新聞記事を探して本文の内容と関連づけながら説明することができる。			
評価規準	関心・意欲・態度【A】	思考・判断【B】	技能・表現【C】	知識・理解【D】
	・人間の本性とは何かということに関心を持ち、意欲的に分析しようとする。	古典に記されている考え方を、現代社会と関係づけながら考えていくことができる。	考察したことを自分の言葉で書いたり、話したりして表現することができる。	「性善説」と「性悪説」の考え方の違いを理解している。
指 導 過 程				
過時間	生徒の学習活動		指導上の留意点・観点別評価	
導入	10分	○号令(黙想、礼、着席) ○前時までの内容を復習しながら、「性善説」「性悪説」の違いを対比し、確認する。	○落ち着いた雰囲気の中で授業が開始できるよう配慮する。【A】 ○プリントを用い、二つの文章の要点を整理する。内容理解について不十分な点については、再度確認する。【D】	
展開	30分	◎「性善」「性悪」自分が選んだ立場を裏付ける新聞記事を探し、レポートを作成する。	○記事を探すための新聞を用意してきているか。 ○机間指導を行い、必要な助言を行う。	
まとめ	10分	○次時の予告を行う。 ○号令(黙想・礼)	○レポートを回収する。	